一般質問

買物支援

山口勝士（やまぐちかつし）議員が町に問う！

移動販売の実現を

答弁 社会福祉協議会等との連携で検討します

Q 高齢者にとって移動販売による「手に取って買物ができる」ことへの援助・支援は大切な施策だ。近隣の例や企業との情報交換・協議を進める中で移動販売の実現を。

A **長生き支援課長**　令和4年11月の高齢者等実態把握調査において「日常生活で支援してもらいたいこと」の問いに「買物」が上位にありました。自宅近くまで来る移動販売があれば遠くまで行かなくても、自分で気軽に買物ができます。近隣自治体の取組状況の調査や、関係機関との情報交換、社会福祉協議会等とも連携し、検討していきます。

道の駅から町なかへ誘導を

Q 道の駅がオープンした。大きな目標である「町なかへの誘導」実現に向け、具体的な手立ては。

A **にぎわい創出課長**　電動自転車・キックボード・トウクトウクの貸出しによる町なか周遊と「町内巡りデジタルスタンプラリー」の開催や町なか施設利用特典付「道の駅おがわまちデジタル会員証」の発行など、多くの人の町なかへの誘導を働きかけていきます。

嵐山町で始まった移動販売車両

物価高騰対策

髙橋さゆり（たかはし）議員が町に問う！

当町独自の支援策は

答弁 省エネ家電買換え助成などを予定しています

Q 物価高騰で、多くの町民から「生活が苦しい」との声を聞くが、政策等の進捗は。

A **政策推進課長**　令和6年12月に国が補正予算措置した「個人住民税非課税世帯給付金」は、6月末現在で2757世帯になります。「こども加算」は199人に支給しました。「定額減税補足給付金」は令和6年度分所得が確定し、支給額に不足が生じた人に給付を行う「不足額給付」を準備が整い次第、実施します。

Q 当町独自の支援策は。

A **政策推進課長**　令和7年度物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金を活用し「省エネ性能の高いエアコンと冷蔵庫の買換え費用の助成」「高齢者のインフルエンザ予防費用の助成」「小中学校の学校給食物価高騰分支援」などを見込み、予算計上しました。

Q 以前スモリバの活用による電子クーポン事業があったが、考えられないか。

A **政策推進課長**　今後も国の動向を注視し交付金事業等が示された場合に、社会経済状況等を踏まえ、有効な施策を考えていきます。

多くの方が期待している買換え補助

「団子3兄弟の真ん中」。自分も間に挟まれているので親近感があってよく聞いていたな。（T・Sさん　30代）

ぼくにとっての真ん中は「勉強」です。それは勉強することでいろいろな知識が学べるからです。（O・Tさん　13歳）

大病を患った私。今は「家族と過ごす時間」が一番です。（M・Sさん　60代）

部活動

鈴木秀尚（すずきひでなお）議員が町に問う！

生徒の希望に応える方策は

答弁 休日の地域クラブへの移行を進めます

Q 生徒の多様な希望をかなえるために、2つの中学が連携する等の方策は。

A **学校教育課長**　一部で合同部活動や拠点校部活動を行っています。休日の部活動は「地域クラブ」への移行に向けて、実証事業を始めます。

駅周辺の新規店舗へ支援を

Q 開業後の支援は。

A **にぎわい創出課長**　商工会と観光協会が、店舗のPR・パンフレットへの店舗情報の掲載・イベント参加による販路拡大等の支援をしています。また、各商店会が独自のイベントを行う際に補助金を用意しています。さらに、役場職員に新店舗の情報を周知して利用を促しています。

防犯対策

Q 空き巣や強盗が増加しているが対策は。

A **防災地域支援課長**　「防犯講習会」や「こどもあんしん一一〇番の家」等の事業を行っています。警察署からの依頼により「防災行政無線」や「おがわ情報メール」で周知を図っています。

地域防犯の要「駐在所」

複合飲食施設

笠原規弘（かさはらのりひろ）議員が町に問う！

食と人をつなぐ横丁の研究を

答弁 事業を行うには高いハードルがあります

Q 甲府ぐるめ横丁（山梨県甲府市）は民間企業が手がける貸店舗型の複合飲食施設で、人と食をつなぐ魅力的な空間である。当町でも積極的な研究を。

A **にぎわい創出課長**　当町で同様の事業を行うには高いハードルがあると捉えています。今後は道の駅の観光客が町内飲食店へ足を運ぶためのイベントなどを実施していきます。

Q 観光協会は自らが稼ぐとともに民間事業者に潤いを与える存在になっていくことを期待する。協会を法人化する目的とは。

A **にぎわい創出課長**　「道の駅ふれあい広場のレンタル事業」や「水辺deベンチャー・チャレンジ事業」など、拡大する事業規模に対応するため法人化を予定しています。

コミュニティナース

Q （株）ヤオコーの報道発表に対して連携等を考えているのか。

A **政策推進課長**　創業の地である当町への思いから今回の取組につながったと述べられています。その気持ちを大切にし、今後もまちづくりの様々な施策に連携を図っていきます。

沿線で最も早い横丁の研究を

次ページも一般質問

小川町議会だよりは情報にコダワル！用語解説はじめ関連情報への二次元バーコードなど「読者目線」の編集を心がけます。

ひとりで泣くことはできるが、ひとりで笑うことはできない。「出会いを大切に」したい。（A・Oさん　77歳）